

## 岩手県男女共同参画審議会発言要旨（R2.2.5、R2.6.18）

柱	区分	審議会 開催日	意見	対応方向
Ⅰ 関連	地域社会	R2.6.18	地域社会について、復興・防災で進めている女性参画専門委員や防災会議に女性委員の参画を進めていくといった経験を生かすと、地域で意思決定に入って行きやすいというのは全国的にも男女共同参画の活動をしている団体ではよく聞くこと。そういうアイデアや工夫を盛り込むと、プランが絵に描いた餅で終わらずに具体的に進むのではないかな。	I-2の現状・課題において、平常時からの取組の重要性について記載しました。 【P25】
		R2.6.18	より重要と思っている地域社会。岩手の特徴として県土が非常に広い。盛岡と沿岸の地域格差、特に経済的な格差から、若者が流出しているという状況もある。その中で、男女共同参画の拠点がほとんどなく、地域社会の意識変革が遅れていると感じる。看板が上がっているだけでも違うと思うので、小さな場所でもいいので拠点づくりを目指して欲しい。相談窓口を置くとか、優良企業の説明をすとか派出所にできるのではないかな。そういう体制を作りますといったことを今回のプランに盛り込むといいのではないかな。新たに沿岸へのアウトリーチの仕組みを作ってもらえると一番いいと思う。	県が拠点を新たに整備することは困難ですが、振興局や市町村、各種団体、ハローワーク、地域ジョブカフェ等との連携や出前講座の実施等を通じ、沿岸をはじめとする県内各地での取組を進めて行くことについて記載しました。
Ⅱ 関連	防災	R2.6.18	「防災における男女共同参画の推進」の目指すべき姿の最後の文言は、平常時から男女共同参画の視点を大事にするとか、男女共同参画を実現することが地域防災力の向上に繋がるというような文言に変えるべきだと思う。平常時から男女共同参画社会を作るという意識が必要であることを明記してほしい。	目指す姿の冒頭に、「平常時から」の文言を追加しました。また、「現状・課題」に明記すると共に、I-2の項にも同様の内容を明記しました。 【P29.25】
Ⅲ 関連	若年女性の県外流出	R2.2.5	若年女性の県外流出については、かなり大きなテーマになるのではないかなと思うのでぜひデータの整理をして欲しい。	本県にとって若年女性の定着等、人口減少対策は重要な課題です。 このため、「第1章 現状と課題」で年齢別社会増減数のデータを盛り込みながら、若年女性の県外流出について記載しました。 また、ふるさと振興総合戦略の取組と連動しながら、Ⅲ-1に県内就業やU・Iターンの促進について記載しました。 【P5.31】
		R2.2.5	若者女性と若年女性というのは違うような気がする。若年女性の困難さをきちんととらえることは必要。県外に流出してもしんどい状況で暮らしている若い人が多いという話も聞くので、若年女性の戦略、岩手で暮らすというところを少し深めていただきたい。	
		R2.2.5	岩手県で育つというところがとても重要だと思っている。岩手でどのように育ったかということは、経済的な問題があったとしても、精神的に安心できる場であれば帰りたくなると思う。都会と比べ、平均値がこの位で、こんなに岩手は劣っていますよという育て方をしていると、岩手に愛着が持てないのではないかなと思う。	
		R2.6.18	若年女性の県外流出という点で、色々な原因があると思うが、経済的な対策のところ、全体の賃金水準や女性への目配り、働きやすい環境のようなどを重点的に見ていく必要があるのではないかな。	
Ⅳ 関連	DV・性犯罪	R2.2.5	発達障がいと言われる子ども達の子育てに母親が困っている。虐待やDVのところについて、そこの部分をもっと手厚く、何としてもそこは無くすというところを強く出して欲しい。	DVについて予防啓発や支援体制等の充実に取り組むことを記載しました。 【P42～44】
		R2.2.5	性被害の防止やワンストップセンターの体制整備がまだまだ進まない岩手に女性は住みやすいのだろうかという思いがあり、これも流出につながっているのではないかなと感じている。性犯罪の防止についても記載して欲しい。	性犯罪・性被害について予防啓発や支援体制等の充実に取り組むことを記載しました。 【P42～44】
		R2.2.5	はまなすサポートについても24時間対応ではない、医療者がいない等、課題が多々あると感じている。被害者がきちんと支援を受けるために初期対応をどうするかというところで非常に大きな課題。今回のプランの中で少し改善できたらと思っている。	

柱	区分	審議会 開催日	意見	対応方向
IV 関連	新型コロナ	R2. 6. 18	新型コロナウイルスは自然災害ではないが、災害。リスク管理ということでは、女性達が困難な状況に置かれていることもある。どこかでリスク管理の視点を入れていただけるとオリジナリティがでてるのではないかな。	「第1章 現状と課題」及び、IV-2「困難を抱えた女性への支援」の現状・課題に明記しました。【P8. 45】
	LGBT	R2. 6. 18	性的マイノリティの方のことを困難を抱えた女性等の中に入れるのはどうなのか。項目の立て方の問題なので、何かうまい解決策があれば検討いただきたい。	V-2「男女共同参画の視点に立った意識改革と制度・慣行の見直し」にLGBTの項目を移動しました。 また、項目名を「(2)多様な性の尊重と性的マイノリティ(LGBT等)への偏見や差別の解消」とし、SOGI(性的指向と性自認)の考え方を入れました。【P54】
		R2. 6. 18	困難を抱える女性等の項にLGBTを入れているというのはどうなのか。理解されていない現状の中でどうディフェンスしていくのかという考え方が、この項目にはそぐわないと感じる。	
		R2. 6. 18	女性「等」という言葉がすごく気になった。言葉を変えて欲しい。	
	SOGI	R2. 6. 18	マイノリティも確かにそうだが、異性愛も性の多様性の一つではない。人権ということを考えるのであれば、SOGIという考え方で行くという選択肢もあるのではないかな。SOGIという考え方を入れるということを検討して欲しい。	
	若者女性の困難	R2. 6. 18	コロナの影響で若年女性について、今は表には出ていないが、働き始めたり、進学で親元を離れたりすることで、色々な問題が噴出することも十分に考えることができる。そのようなことは岩手が大事にすべき問題。可能であれば教育関係と連携して、若者女性の困難さを支援して欲しい。	困難を抱えた若者への支援について取り組むことを記載しました。【P45. 46】
	就職氷河期世代	R2. 6. 18	氷河期世代の経済的不安定な方たちも経済的自立が必要。社会的には問題となっているので考えていただけるといいのではないかな。	就職氷河期世代への支援について取り組むことを記載しました。【P45. 46】
	メディア	R2. 6. 18	メディアにおける人権の尊重について、子ども達が知らず知らずのうちに見たり読んだりすることで、固定的性別役割分担意識を強化させられてしまうということある。固定的性別役割分担意識の気づきについて充実して欲しい。	気づきを促すための意識啓発について記載しました。【P53】
V 関連	家庭	R2. 6. 18	どう教育するかとか支援するかは難しい問題だと思うが、単身や独身の男性(特に中高年)の家庭的な自立、自分のケアができるようになっていくようにという目配りも重要なのではないかな。	男性の自立について、現状・課題に記載するとともに、男性の家庭参画への意識醸成等や男性相談への取組を記載しました。【P56】
	子育て・介護	R2. 6. 18	子育てや介護は社会で支援していくというところが今の表現だとアピールが弱いと思う。	項目名を「…社会全体で子育て・介護等を支援する環境づくり」に変更しました。【P56】
	教育・学習・慣行	R2. 6. 18	高齢者から中年、子ども達へと無意識の考え方がずっと伝わっている。どこに一番教育が必要なのかなと思う。難しさを実感している。教育・学習・慣行をぜひ入れて欲しい。	引き続き、V「男女共同参画の実現に向けた基盤の整備」の中で教育・意識啓発等の取組を進めます。【P53】

柱	区分	審議会 開催日	意見	対応方向
全 般	経済の 視点	R2. 2. 5	経済の話が抜きになっているのがとても気になる。ジェンダー平等の大局的な目的である労働生産性と創造性の向上という部分を見失っているのではないかという気がする。 経済の話を大事にすべきではないか。国の委員会メンバーを見ても企業の人たちがほとんど入っていない。	「第1章 現状と課題」、及び、Ⅰ-1、Ⅲ-1の現状と課題において、経営の面から見ても、女性の活躍を進めることがメリットがあることについて記載しました。 【P5.23.31】 なお、指標については、10月中旬に開催予定の第3回審議会にお示しする「素案」の中に盛り込み協議させていただきます。
		R2. 6. 18	ビジネスの世界では女性が活躍したほうがGDPが日本の場合4%上がるということで、女性が活躍しなくてもいいという選択肢はない。ジェンダー平等も働き方改革も確実に進んでいくと思う。 前回も言ったが、経済の話が抜けている気がする。理想論もいいが、現実の問題を解決するためには、初めになぜこの計画を作るのかということがまとめられていないし、社会情勢の変化とは何なのかが分からない。もう少し分析したほうがよい。このプランでオリジナリティがあるのは復興だけ。早くKPI、目標数値が見たい。姿勢ばかりで具体的な方法が何もないと思う。	
	「男 女」と いう文 言	R2. 2. 5	「男女が」という文言を「すべての人が」に替えることはできないか。	性別による格差があることを記載したい箇所以外については、「性別に関わらず」や「多様な」といった文言に置き換えました。
		R2. 2. 5	「すべての人々が」と書くと、ジェンダーの問題意識が薄まるので、岩手大学では、「性別に関わりなくすべての人々が」という言い方にしている。より包括的にということではどこかにそうした趣旨を明記し、以降はわかりやすく書くということもあるが、一方で、性別による格差があるということが分かるような表現はしっかり入れて行かないと、このプランの整合性がつかない。	
	実現へ の見通 しもつ た策定	R2. 2. 5	国の補助がなくなった場合に他の事業に影響がでないよう、実現する上での予算の重みづけやバランスの取り方を考えた構成とする等、見通しをもって策定する必要があるのではないか。	引き続き、実現への見通しを持ちながら策定を進めていきます。
	他部局 連携	R2. 2. 5	パブコメをしている子ども子育てプランにもワーク・ライフ・バランスという言葉が入っているので、各部局が連携して、見通しを立てながらプランを策定して欲しい。	「いわて県民計画」との整合性を図りつつ、他部局とも連携して策定を進めます。
	若者の 視点	R2. 2. 5	若い世代の意識は変わってきている。若者が入って次世代の議論をした方がいいのではないか。	今後、パブリック・コメントや地域説明会を開催する際に検討していきます。
		R2. 6. 18	若い人の方が感覚的に進んでいるのではないか。中高生とか学生の意見も反映させてプランを作っていくのもあっていいのかなと感じた。	
	わかり やすい 工夫	R2. 2. 5	高齢者や子供でもわかりやすいような文言などの工夫をして欲しい。	概要版やリーフレットの作成等により、わかりやすい周知について今後検討していきます。
		R2. 2. 5	プランができたらわかりやすいリーフレットなどで周知をして欲しい。	